

## 皮膚科学の進歩に寄与する研究報告書

### 紫外線だけじゃない！合成界面活性剤が皮膚老化に与える影響

多くの人が紫外線対策には注意を払っていますが、合成界面活性剤の影響についてはほとんど気にしていません。どちらも同じように、皮膚バリアの要である細胞間脂質のラメラ構造を壊すという影響を与えています。

#### ●紫外線の影響:

1. 紫外線を浴びると活性酸素が発生。
2. 活性酸素が皮膚や細胞間脂質、角質細胞膜の脂質と結合し、過酸化脂質を作り出す。
3. これが皮膚バリアの要である細胞間脂質のラメラ構造を壊し、皮膚老化(シワ・シミ・たるみ)の原因となる。

#### ●合成界面活性剤の影響:

1. 合成界面活性剤が皮膚や細胞間脂質、角質細胞膜の脂質を溶出させる。
2. これが皮膚バリアの要である細胞間脂質のラメラ構造を壊し、皮膚老化(シワ・シミ・たるみ)の原因となる。

このように、紫外線も合成界面活性剤も皮膚バリアを壊し、皮膚老化(シワ・シミ・たるみ)の原因となりますが、多くの人が紫外線の影響に関しては気にしますが、合成界面活性剤の影響についてはほとんど気にしていません。

その理由はいくつか考えられます:

1. 認知度の違い:  
紫外線の有害性については化粧品メーカー側が積極的に啓蒙活動し、消費者に広く知られており、日焼け止めの使用が一般的です。ただし、ほとんどの日焼け止めにも合成界面活性剤は使用されていますが、そのことを啓蒙することはほとんどありません。一方、合成界面活性剤の有害性については化粧品メーカー側が積極的に啓蒙活動しませんので、消費者にまだ十分に認知されていないことが多いです。合成界面活性剤の影響や代替品についての情報が不足しているため、どの製品が安全であるかを判断するのが難しいと感じる人が多いです。
2. 使用頻度と依存度:  
合成界面活性剤は、シャンプー、洗剤、メイク化粧品や日焼け止めを含むスキンケア化粧品など日常生活の多くの製品に含まれており、これらを避けるのは難しいと感じる人が多いです。
3. コストと利便性:  
天然成分を使用した製品は一般的に効果があり、長期間安心して使えるのですが、高価であり、使用感が悪いため、短期的な使用で終わる人も多いです。一方、合成界面活性剤を含む製品は肌にとって良くないですが、一時的でも即効的な効果があり、安価で使用感も良いので、短期的には有害性より利便性を優先して選びます。どうしても、肌の調子が悪くなるまで、長期的に使い続ける人が多いです。